



12月29日 お餅つき



# ゆく年くる年 大晦日

12月31日、氷点下の中、たくさんの方が『除夜の鐘』を撞きに来られました。鐘を撞き、古い年の煩惱（ぼんのう）を祓い、新たな気持ちで新年を迎える事ができます。

毎年、お寺では、忍野の厳しい寒さに負けず、風邪をひかないように温かい「けんちん汁」と「甘酒」を振る舞っています。

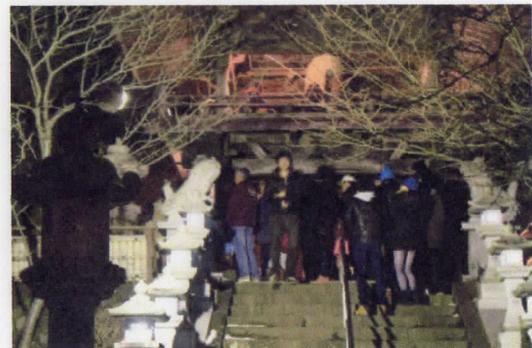
ヨイショッ〜!!



小さな子供から、大人まで、賑やかな「お餅つき大会」です。1年経ち、子供たちの成長をも感じる事の出来る1日です。



毎年恒例の『お餅つき』が行われました。  
お寺では毎年29日についています。一般には、『二重苦』に通じ縁起が悪いともいわれていますが、福「ふ(2) < (9)」がつくから良いとも聞きます。苦においては「苦」をつき、福においては「福」をつく。檀家の皆様の苦を祓い、新しい年の福を願って祈りをこめてついでいます。  
ついたお餅は、仏様や神棚に鏡餅として御供えし、その他はお正月にお雑煮でいただいたりします。



## 知っとこ!!

東円寺の鐘楼門は1865年（慶応元年）幕末に造られました。その頃は茅葺きで今の屋根に替えられたのは大正時代です。天井には龍の絵が描かれています。当初の梵鐘は太平洋戦争で鉄が不足した為、軍に供出しました。今の梵鐘は三代目で昭和になって寄付していただいた物です。



東円寺の梵鐘